

# 東日本震災復興しんぶん

発行  
東京土建足  
立支部災害  
対策委員会

## 駅頭募金に真心が集まる

綾瀬駅、北千住駅、竹ノ塚駅で106,845円の募金

### 五十六人のボランティア参加

四月十五日、三駅で復興募金駅頭宣伝をおこない三駅で十萬六千八百四十五円の真心募金が寄せられました。



綾瀬駅には十八人の仲間が参加し宣伝力からも熱く訴えると東京武道館が避難所ということもあり五二、七二円。

北千住駅は若い人たちがワイワイでしたが毎日のように募金活動があるのか八、四九二円でした。十四人が参加

### みなさんの募金で復興を

仕事が少ない、などで募金され単価が低すぎる建設業界の現状のなかで震災がおきました。町会・自治会などで出した方よ他の団体

### 災害対策復興委員会を設置

青森出身の見付副委員長が副責任者に

未曾有(みぞう)の被害をもたらした東日本大震災。足立支部には東北、北関東出身者が大勢います。この震災で親戚や甥、姪が亡くなられた方もあります。三陸海岸の出身の実家では命は助かったものの生活の糧とな

任(福島)、宮城常任(福島)、小針常任(福島)が委員に つきました。事務局長には松館書記(岩手)、事務局には中村書記(奥さんが岩手)、早川書記、仁田書記が つきました。

### 風評被害を吹っ飛ばせ

茨城県産の野菜を食へよ

今回の駅頭募金行動はボランティア参加。そのなかで皿沼分会から六人が参加、支部の要請に積極的

地震の被害は原子力発電所をも破壊しました。政府、東京電力は「想定外」と答弁を繰り返して

解決するには「家を建てる」元気が必要です。被災にあつた仲間が早く元気になるようにみるように

復興対策委員会事務局では放射能汚染の風評被害を受け



茨城農産の野菜を食へよ

に組合員が元気をもらった行動となりした。ボランティアのみなさんお疲れさま。

- とネットワーク)を支援しようと産直野菜の協力を試みまし
- た。
- レンコ(土浦) 三〇〇グラム 一〇〇円
- 菜の花(小美玉町) 一〇〇円
- 十一品種の野菜は
- 二〇〇グラム 一五〇円
- ゴボウ(石岡市) 二〇〇グラム 一五〇円
- さつまいも(石岡市) 六〇〇グラム 一〇〇円
- 長ネギ土付(阿見町) 五〇〇グラム 一〇〇円
- レタス(坂東市) Lサイズ 一五〇円
- グリーンポール(古河市) Lサイズ 一〇〇円
- キュウリ(旭市) Mサイズ 二〇〇円
- ウド(土浦市) 一五〇グラム 一五〇円
- コマツナ(銚田市) 二〇〇グラム 一〇〇円
- ミスナ(銚田市) 二〇〇グラム 一〇〇円

# いよいよ現地へボランティアを派遣 いまこそ建築職人の人情と気概を発揮

## 第一陣は二十五日に大船渡へ

東京土建は災害被災者支援と災害対策改善を求める全国連絡会（略称「全国災対連」）のもとに被災地へのボランティアの派遣を決めました。東京の災対連は東京地評が事務局団体となっており、東京土建として

青年後継者世代を中心に六十歳程度まで健康で体力がある方で希望者は支部に事前登録をする。期間は三泊四日か一週間程度の二つ。派遣期間と派遣地（岩手・宮城・福島）は支部と一緒に行く方で調整をするが東京土建はできるだけ同一の場所になるようにする。交通は往路はバスチャーター、復路は自前手配とする。期間は四月下旬以降にさみだれ式に

派遣。数ヶ月を予定している。費用・手当ては本部負担でおこなう。一号動員手当て（八千円）+ 四千円。民宿の場合は本部負担。書記は出張手当（一日三千円）のみとする。そのほかは組合員と同じ。

被災者の要望・意見の聞き取り。炊き出しの手伝い。いづれにしても現地の指示に従い「解体や大工仕事」などを勝手にはできない。

### 活動内容

被災家屋などの清掃・片付け。救援物資の整理と配布。

### 基本的な服装・持ち物など

- 作業服
- 軍手
- マスク
- タオ
- 作業地の雨具
- 運転免許証（資

- 格者）健康保険
- 携帯電話
- 携帯ラジオ
- 懐中電灯
- 水筒
- 防寒服
- 着替え
- そのほか自前で生活できるような物をできるだけ自前で生活できるように準備が必要となります。

足立区内でも被災がありました

被災地の状況は一刻一刻変化しています。今後は、派遣体制に変わっていくことをご承知ください。

建物被害は建物全壊が一件、建物半壊三件を数えています。

通称赤紙といわれる危険家屋は二十九棟、黄紙といわれる要注意は七十六棟でした。千住西地域では住宅地で液状化が発生しマンホールや下水溝から土砂が大量に噴出しました。結果として家屋が面する道路が二十センチ以上陥没し家屋の傾き（全壊に相当）しました。荒川河川敷では無数の液状化が起こっています。

### 第一陣は書記局から松館・松村の両書記

二十五日からの第一陣に出發するのは書記局の松館・松村の二人の書記が派遣されることになりました。松館書記は岩手県生まれで東京土建足立支部岩手県人会の事務局もしています。さいわいに松館書記の出身地は内陸部なので直接的な被害は無かったものの停電などライフラインに支障があったようです。松村書記は足立支部に入職前に仙台で働いていたこともあり被災となった宮城県仙台地域に友人も多くボランティアに参加することにになりました。当初は宮城県を希望しましたが東京土建として岩手県大船渡市に行くことに。足立支部の先遣隊としてボランティアするとともに現地の現状を把握し、二次以降の派遣が円滑になるように調査にいきます。

